

## 現行プランの取組みの成果と課題

| 【基本目標1】文化芸術が創造・発信されるとともに、次世代への継承が行われ、市民に充実した文化芸術活動の鑑賞や参加の機会が提供されている |  |  |
|---|--|--|
| 主な取組み   | 取組みの成果   | 課題   |
| 文化会館自主企画<br>文化芸術事業  | ○新型コロナウイルスの影響により、文化イベントに参加する機会や文化団体の活動発表の場が減少したが、コロナ禍において新しい生活様式に合わせたイベントを実施することができた。  | ●新型コロナウイルスの影響により、事業の中止や延期が相次ぎ、計画どおりに事業を実施することができなかった。市民意識調査においても、ホールなどで直接文化芸術を鑑賞した市民は半数を割る結果となっており、鑑賞の機会の回復とオンラインを活用した事業の検討などが必要である。 |
| 本市の特色を活かした<br>文化芸術事業  | ○本市の特色であるカルタ・押し花・漫画・絵本を活用した文化芸術事業を実施し、市民に大牟田の良さを再認識してもらうとともに郷土への愛着を深める機会となった。  | ●文化団体等の会員減少や担い手不足が深刻化しており、団体活動への継続的な支援が必要となっている。   |
| 大牟田市民文化のつどい<br>文化継承事業   | ※事業を通して大牟田を好きになった参加者の割合（アンケート結果）<br>R3年度<br>押し花：107人/112人 95.5%  | ●市民意識調査において、文化芸術に関する情報を市の広報誌など紙媒体で得ている市民が依然として多いものの、若者世代はSNSでの情報入手が多いことから、世代にあった効果的な情報発信が必要である。                                      |
| ホームページやSNSによる<br>イベント告知   | R4年度<br>押し花：66人/72人 91.7%<br>カルタ：21人/24人 87.5%<br>○市や文化会館等の公共施設のイベントは、市ホームページや公式LINE、またtwitterやfacebook等のSNSを最大限に活用し、周知を行った。 |  |
| 【基本目標2】文化芸術を通して子どもや若者が豊かな感性や時代を生きぬく力を身に付け、心豊かでたくましい青少年が育まれている       |  |  |
| 主な取組み   | 取組みの成果   | 課題   |
| 大牟田文化会館での学校鑑賞事業<br>文化芸術の体験ワークショップ・<br>工作教室、親子コンサート                  | ○子どもを対象にした体験ワークショップ等を実施し、子どもの想像力や達成感を養うことができた。   | ●市民意識調査の自由記述の設問で、学校で文化芸術に触れる機会を作ってほしいとの意見が多く見られた。教育委員会や学校と連携し、学校教育の中で文化芸術に親しむことができる仕組みを確立する必要がある。                                    |
| 子どもアートスクールツアー   | ○劇場や美術館等に行き、質の高い文化芸術に直接ふれる体験ツアーを実施することで、子どもの豊かな感性を育むことができた。<br>※ツアーに参加して面白かったと答えた子どもの割合（アンケート結果）<br>R3年度 40人/40人 100%        | ●文化団体や文化会館の指定管   |

|                     |   |   |
|---------------------|---|---|
| 文化芸術が生み出すまちの魅力アップ事業 | <b>R4年度</b> 40人/40人 100%<br>○ダンスや演劇などのワークショップは、子どもたちの交流の場となり、コミュニケーション能力の向上や社会性や主体性の育成につながった。<br>○新たな取り組みとして、公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団と連携し、音楽を通じた次世代を担う子どもたちの育成を行った。今後も事業を充実させていく予定。 | 理者等と連携し、質の高い文化芸術事業の継続的な実施を行うとともに市民のニーズや社会の変化等に応じて、既存の事業を発展させていく必要がある。 |
| 若者の関心に合わせた文化芸術事業    |   |   |

**【基本目標3】文化芸術を観光、まちづくり、教育、福祉等の関連分野に活かし、大牟田市の個性を高めている**

| 主な取組み                    | 取組みの成果   | 課題   |
|--------------------------|--|--|
| 三池カルタ・歴史資料館 自主企画事業       | ○特色のある企画展や講座等を実施し、日本のカルタ発祥の地として、カルタ文化等の普及啓発に取り組んだ。<br>○福祉課等の関係部局と協議し、現状や課題・情報の共有等を行った。 | ●地元の活動団体や指定管理者と連携し、支援することでさらに地域で個性ある文化芸術事業を実施する必要がある。<br>●他の分野とさらなる連携強化を図り、文化芸術が他分野の各施策で生かされ、市民が文化芸術活動に参加する機会が身近となるような取り組みを行っていく必要がある。 |
| 文化芸術を活用した福祉分野における生きがいづくり |  |  |
| 他の分野の関係機関との意見交換会         |  |  |

**【基本目標4】地域の文化芸術を支える人材が育成され、文化芸術を通して、人と人、人と地域のつながりが生まれるとともに、まちに支え合いの風土が広がり、まちの魅力が高まっている**

| 主な取組み                     | 取組みの成果   | 課題   |
|---------------------------|--|--|
| 協働型文化芸術事業の実施              | ○地域の文化団体や関係団体等と協働で実行委員会を立ち上げ、地元根ざした多分野にわたる文化芸術イベントを実施することができた。<br>※実行委員会形式で実施した事業<br>・本市の特色を活かした文化芸術事業（市、関係団体）<br>・大牟田市民文化のつどい（市と文化振興財団、文化連合会等の関係団体）<br>・文化芸術が生み出すまちの魅力アップ事業（市、文化振興財団）<br>・若者の関心に合わせた文化芸術事業（市と文化振興財団、文化連合会）<br>○文化イベントを企画運営する団体等を対象にアートマネジメント講座を実施し、地域と連携した文化イ | ●アートマネージャーやコーディネーターの養成には、今後対象の拡充や継続的な事業の実施を検討する上で、事業内容の見直し等が必要である。<br>●障害のある人の文化芸術活動の推進については、関係団体等と連携し、引き続き協議を続け、事業を実施していく必要がある。 |
| アートマネージャーやコーディネーターの養成及び支援 |  |  |

|                         |  |  |
|-------------------------|--|--|
| <p>障害のある人の文化芸術活動の推進</p> | <p>ベントのあり方等を共有することができた。</p> <p>※今後の活動の参考となったと答えた参加者の割合（アンケート結果）<br/> R4年度 26人/29人 89.7%</p> <p>○障害のある人の文化芸術を推進している団体等と協議の場を設け、今後の展望や行政との連携について意見交換を行うことができた。</p> |  |
|-------------------------|--|--|

現行プランの取組みの成果と課題

|   |
|---|
| <p>【 成 果 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大という不測の事態に見舞われ、市民が文化芸術事業に触れる機会が大きく減少し、その影響は市民意識調査にも顕著に表れていたが、コロナ禍でも実施・参加できる事業を模索・検討することで、事業のあり方を見直す機会となり、多様な事業を展開することができた。</li> <li>・地元の文化団体や文化振興財団等と連携して事業を実施することで、地域に根ざした事業を実施することができた。</li> <li>・文化芸術をとおした次世代を担う人づくりに重点を置き、子どもや若者が親しみやすい文化芸術事業を多数実施することができた。</li> </ul> <p>【 課 題 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において文化団体等が活動制限を受け、団体の解散や会員の減少、また担い手不足が深刻化し、団体活動への継続的な支援が必要である。</li> <li>・市民意識調査では、文化芸術鑑賞に関心を持つようになると思う項目として「興味を持てるアーティストや作品に出会う」という項目が最も高かったため、市民ニーズの把握はもとより、文化芸術に関する情報などを的確に把握し、市民が興味を示すような事業の実施が必要である。</li> <li>・紙媒体等のアナログと SNS 等のデジタルを融合した効果的な情報発信を行っていく必要がある。</li> <li>・福祉分野における文化芸術事業の活用や障害のある人の文化芸術活動の推進について、関係団体等と連携・協議を行い、事業の実施に向けて始動していく必要がある。</li> </ul> |
|---|